改訂

理論的教育学

文学博士 篠原助市 著

文学博士 篠原助市著

改訂

理論的教育学

協同出版株式会社刊行

改訂 理論的教育学

昭和二十四年四月三十日 初版発行
昭和四十二年二月十一日 再版発行

定価 一、五〇〇円

著者 © 篠原助市
発行者 小貫英
印刷者 小笠原六郎
東京都文京区後楽二―一四―九
製本者 荒崎清
東京都新宿区柏木二―二三一

発行所 協同出版株式会社
東京都千代田区神田錦町二―一
電話 (291) 一八五一～五
振替 東京九四〇六一

乱丁・落丁本はお取りかえいたします。 常磐印刷・荒崎製本

再版に際して

『理論的教育学』（初版昭和四年）は『教育の本質と教育学』（昭和五年）と共に最初の纒まった著作である。序文に言うように、本書は教育学の学としての自立を目指し、教育の意味および本質を理論的に考察して、教育行動そのものの定理を明らかにしようとする。

爾来、個性の歴史化を強調する『教育学』（十四年）を経て実際的教育学に関心を向け、『教授原論』（十七年）、『訓練原論』（二十五年）を著わし、『教育哲学』を以て体系的述作を終わっている。その間二十余年、『理論的教育学』に示された見解はほぼ一貫して保持された。

明治二十六年愛媛県尋常師範学校に入学、教育界に踏み入った著者は三十一年卒業、小学校に奉職した。ついで三十四年東京高等師範学校英語科に入学、三十八年卒業して暫く研究科（倫理・教育）に籍を置いて後、福井県師範学校教諭、同付属小学校主事となった。さらに大正二年京都帝国大学文学部哲学科に学んで五年卒業、大学院学生、副手を経て八年東京高等師範学校教授と

なり、やがて留学した。十二年東北帝国大学法文学部教授として教育学講座を担当、その後昭和五年東京文理科大学教授に転じ、十六年まで在職した。

『理論的教育学』は東北帝国大学教授として環境に恵まれた五十歳代の初めに書かれた。仙台に住んで終日研究にいそしんだ著者の姿はなお記憶に鮮かであるが、真摯な読書、思索は今日私に受け継がれた蔵書にも随処にあとをとどめている。

本書は、著作の中最も広く迎えられて版を重ね、昭和二十四年加筆して『改訂理論的教育学』として再刊された。以来十数年の歳月が流れ、三十二年著者は世を去った。

今般協同出版社の好意により再版されることになったのは、遺族としても望外の喜びである。ここに深く感謝の意を表したい。

昭和四十一年秋

京都　篠原陽二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

改訂版序

舊版理論的教育學はかなり廣く行はれ、年と共に版を重ねること十數次に及んだ。しかしその全體系において大戰當時の教育指導精神と著しいくひちがひがあつたので、昭和十六年進んで絶版に附し、今日に至つた。

昭和四年初版刊行以來星霜まさに二十年。その間私自身の考へ方にもかなりの動きがあつたので、全部に亙り改訂を加へたいと一切ならず思ひ立つたのであるが、身邊公私の事情に遮られて果し得なかつた。幸に、昨夏以來、心もおちつき、時間の餘裕も出來、その上友人の切なる勸めもあつたので、勇を鼓して、改訂に當り、拮据六ヶ月、漸くにして再び之を世に送る運びになつた。

それは私にとつてかなり大きな仕事であつた。改訂といつても、ところどころに筆を入れる程度のものなら、まことにやさしいが、嚴密な自己批判を加へつつ、全部を書き改めるのは容易の業ではない。舊版の大體の骨組はもとより變つてゐないが、しかし、前後の統一、重點のおきど

ころ、こまかな内容などに至つては面目一新せるものあるを、ひそかに信ずる。中にも第一章第二節、第二章第三節、第四章第三節及び第四節、第六章第四節、第八章第二節、第九章全部は全く新しい構想の下に、大部分改めて稿を起したものであり、そこに讀者は恐らく私の最近の思想を讀みとられるであらう。不滿の點は尙かずかずある。しかしこれ以上のことは今の私の力には及ばぬ。我國は今や教育革新の時代にあると人は言ふ。その通りである。けれども教育の方法や技術が如何に動かうとも、その根柢には不動一貫のものが存しなければならぬとは、今も昔も變らぬ私の信念である。せめてこの小著が教育の「眞實性」に心を寄する人々に、何ほどかの糧となり得るなら、望外の幸である。最後に本書の刊行に關し、多大の援助を賜はつた友人安倍三郎博士に對し、特に感謝の微意を表する。

昭和二十四年三月

相州吉濱にて

篠原助市

目次

第一章　教育の意義……一
第一節　發展……一
一、教育的發展と合目的發展　生物的教育學　馴養と教育
二、社會的遺傳と文化　植物類推說　教育的發展の課題性
三、自然の理性化　文化と教育　教育的發展とエロス
第二節　助成……三
一、教育的助成の意義
二、助成の根本動機—教育愛
三、助成の形式と內容
第三節　教育の層位……三

一、教育の自然的形式—非形式的教育
二、教育の三層
三、教育學の對象
第四節　技術及び藝術と教育……四四
一、技術と教育
二、藝術と教育
第二章　教育の理念……五七
第一節　調和的發展……五七
一、理念と理想　教育理念としての自然の理性化
二、調和的發展　意志と精神的發展　二三の問題
第二節　個性と社會……六九
一、「ある個性」と「成る個性」
二、社會的關係と社會的自覺　普遍的個性　謂ゆる個人的教育學と社會的教育學

三、教育理想としての文化及び人格

第三節　一般的陶冶と職業的陶冶……八三

一、陶冶と教育

二、陶冶の三段階

三、職業の本質と職業的陶冶　職業的陶冶と一般的陶冶との關係　教育理念としての自由奉仕

第三章　教育の限界と陶冶性……一〇七

第一節　教　育　の　力……一〇七

一、教育萬能論と無能論

二、遺傳說と環境說　機械的發展觀

第二節　精神の發展と自然の發展……一一四

一、動物の發展と人の發展

二、種族的發展と個別的發展　精神的發展の特色

第三節　精神的素質と精神的遺傳……一三
一、精神的素質の特色と精神的發展の條件
二、遺傳か環境か
第四節　陶冶の本質と條件……一三
一、陶冶性と素質の發展能力
二、陶冶性の本質
三、陶冶の根本條件
第四章　教育の方法と心理學……一四
第一節　類化……一四
一、ヘルバルト派の類化說
二、「類化」概念の擴張
第二節　實驗教育學とその限界……一五

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一、主意的傾向とライの實驗教育學
二、モイマンの實驗教育學
第三節　心理學の發達と教育……一五八
一、近時の發達心理學と教育
二、差異心理學と類型
三、知能檢査とその限界
第四節　精神科學的心理學と教育……一六八
一、精神的連關と了解
二、精神科學的心理學と「生の形式」
三、教育的心理學　自然科學的心理學と精神科學的心理學の教育的地位
第五章　兒童觀と教育……一八七
第一節　教育の主體と客體……一八七
第二節　現在と未來……一九二

第三節　過去と未來……二〇三
第四節　教育的態度……二〇九
第六章　教育的價値……二一五
第一節　理想としての價値……二一五
一、教育價値論の發達　價値の區分
二、生命的、人格的及び宗教的價値
第二節　文化と陶冶價値……二四〇
一、文化財と陶冶財　陶冶價値の區分と統一
二、理想としての價値と陶冶價値　陶冶財の本質的及び附屬的價値
第三節　陶冶價値と人格價値……二五八
一、個性の發展と文化價値の再創造
二、陶冶財の過程化と最廣義の教授

第四節　物質文化の精神化……二六三
一、精神化の契機―「精神的作業」
二、根本意志と諸價値の人格的統一
第五節　快樂的價値……二七三
第七章　形式的陶冶……二七七
第一節　陶冶の三方面……二七七
一、形式的及び實質的陶冶と技能の陶冶
二、形式的陶冶の意義
第二節　一般的形式陶冶……二八四
一、謂ゆる「共練習」
二、形式的陶冶の新着眼點
第三節　範疇的形式陶冶……二九一

第四節　方法と態度の形式的陶冶……二九四
一、範疇的形式陶冶と方法、態度の形式的陶冶
二、方法と精神的態度
三、方法と態度の形式的陶冶と陶冶の三方面
第五節　形式的陶冶と教育—教授と訓練……三〇二
一、形式的陶冶と實質的陶冶の交互關係
二、一般的態度と特殊的態度
三、教授と訓練の合一
第八章　文化價値と教育……三二
第一節　自然科學的對象と說明……三二
一、直　觀
二、直觀から概念、法則へ
三、歸納法と演繹法

第二節　精神科學的對象と了解……三三八
一、自然科學的認識と歴史的認識
二、心理的了解—心理的表現の了解
人格的了解—一般から特殊へ　人格的表現の了解
三、精神的文化における「人相的」（心理的）了解と對象的了解　對象的了解と追創造
四、精神科學的教材における教育の一般形式
第九章　方法一般の原理……三六九
第一節　序説—教育原理の演繹……三六九
第二節　興味……三七四
一、ヘルバルトと興味
二、興味の意義とその心理的區分
三、教育的興味の本質的徴表とその區分
四、教育と興味
目的及び手段としての興味　興味と努力　興味の異種發生　興味の轉移　間接興味と直接興味

第三節　注　意……三九六
一、興味と注意　內的意志としての注意
二、有意注意と教育　注意の教育的發達
第四節　自己活動……四〇三
一、ペスタロッチ對ヘルバルト　自己活動と注意及び興味
二、謂ゆる作業學校と自己活動　受容と發動　自己活動の段階とその最高形式
三、目的及び手段としての自己活動
第五節　練習と習慣……四一三
一、練習の必要　練習と興味、注意及び自己活動
二、習慣の區分
順應的習慣と固定的習慣　個別的習慣と全體的習慣
三、習慣の効果　謂ゆる睿智的習慣　習慣の保守的機能と前進的機能
四、練習と習慣　機械的練習と應用的練習
五、應用的練習と習慣の形成及び改造
直覺　知的活動と習慣　習慣と反習慣　應用的練習の重要性

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com